

「もどす」

あらかじめ移動・変化した対象をそれまでとは逆の方向に移動させてもとの位置に移す、あるいは逆の方向に変化させてもとの状態にすること。対象の向いている方向を換える必要はない。

言語経歴：1959年8月大阪市生 0歳～1歳
大阪市 1歳～19歳東京都世田谷
区 19歳～ 東京都品川区
(東京都立大学学生)

しがみつく・すがりつく・だきつく

宮本幸恵

1. はじめに

森田(1977)は、接尾語「-つく」が動詞につく場合の中で、「かじりつく かぶりつく 噛みつく 食いつく 組みつく しがみつく 吸いつく すがりつく 抱きつく」等を密着としてまとめている。この中で手足を手段として対象に接着(対象に接して着くこと)する動詞から「しがみつく すがりつく だきつく」を取りあげ比較検討してみたい。

2. 分析

- (1) 恐ろしさで 子供は 母親に しがみついた。
- (2) 恐ろしさで 子供は 母親に すがりついた。
- (3) 恐ろしさで 子供は 母親に だきついた。

これらの例文は、子供が母親の保護を受けようとしている点で共通しているが、さらに(1)(3)はその動作に(2)は心情により重点が置かれているようだ。この第一印象をもとにして、以下、対象が存在するかどうか、実際に対象に接着するかどうかの区別をしながら分析していく。

2. 1. 対象が存在し実際に主体が接着する場合
まず、動作についてどのような違いがあるか考える。

- (4) 木に しがみつく。
- (5) 木村の手を感じると恐怖と嫌悪のために身をちぢめて壁に獅噛みついた。(有島武郎『或る女』日本国語大辞典の用例より)
- (6) 命綱に しがみつく。

「しがみつく」の接し方は両腕を(または足も)対象にまわしてかかえ込むようにしっかりと接しても、対象にただびったりと張りつくだけでも、(6)の「命綱」やカーテンに「しがみつく」時のように手で対象を握りしめる(または足をも絡ませる)だけでもよい。共通して言えることは、対象に体前面を向けてしっかりと密着して離れまいとする点にある。

- (7) 娘は 母親の遺体に すがりついて 泣いた。
- (8) 松葉杖に すがりつく。
- (9) 社員が 社長に すがりつく。
- (10) 袂に すがりつく。
- (11) 命綱に すがりつく。

「すがりつく」も「しがみつく」同様、接し方はさ

まぎまであるが、対象に前面を向けるだけではなく、(8)の松葉杖を脇にかかえるような主体の側面にあてる接し方も可能である。また、(9)(10)のように主体が対象よりも低い位置にいる場合が多い。

(12) 花子が 太郎に だきつく。

(13) *命綱に だきつく。

(14) 大木に だきつく。

「だきつく」は対象に腕をまわして体前面を密着させる場合にしか用いない。

次に三語の接着の強さを考える。

(15) がっちり と しがみつく。

(16) *がっちり と すがりつく。

(17) がっちり と だきつく。

(18) 強く しがみつく。

(19) 強く すがりつく。

(20) 強く だきつく。

(21) ?? 軽く しがみつく。

(22) 軽く すがりつく。

(23) 軽く だきつく。

「しがみつく」は軽く触れるように接する時にはほとんど使わない。反対に「すがりつく」は力強くがっぷりと絡むような接し方はしない。「だきつく」はどちらにでも使える。また、(22)(23)では、抱擁する時間が短い場合と抱擁する力が弱い場合と両方解釈できる。

次に目的について考える。

(24) 娘は 母に しがみついて 頼んだ。

(25) 娘は 母に すがりついて 頼んだ。

(26) 娘は 母に だきついて 頼んだ。

(27) 娘は 母に しがみついて 怒った。

(28) *娘は 母に すがりついて 怒った。

(29) 娘は 母に だきついて 怒った。

(30) 娘は 父に しがみついて 喜んだ。

(31) 娘は 父に すがりついて 喜んだ。

(32) 娘は 父に だきついて 喜んだ。

(33) 娘は 母に しがみついて 泣いた。

(34) 娘は 母に すがりついて 泣いた。

(35) 娘は 母に だきついて 泣いた。

(28)のように「すがりつく」は相手に反抗した態度を示さないが、他方、(31)のように喜ぶ時にも使いにくい。これは、「すがりつく」が対象に何かを頼むため、たよりとするため、相手の保護下で安心できる状態になろうとする目的のために接着するからで、その場合、対象はもちろん自分にとって頼れるもの又は頼れる人の体の一部(袂等)となる。

(7) 娘は 母親の遺体に すがりついて 泣いた。

(36) 壁に すがりついて そのまま腰を抜かした。のように、対象が生物でない時には、かつて頼りになったもの、自分を支える物にもたれかかるなどして接着する場合がある。

「しがみつく」は

(37) 強盗は 警官に しがみついて ピストルを奪った。

や(27)のように攻撃・反抗する時にも使えて、特に制限はない。よって、対象となるものも人間、動物、静物など形があり、かつ、腕をまわして接着できる大きさか握りしめる部分があればよい。

「だきつく」も

(38) 強盗は 警官に だきついて ピストルを奪った。

のように、攻撃・反抗にも使え、対象は人間、生物、静物で、かつ、充分に腕をまわして密着できればよい。

主体について考えると、今までの例文からも明らかかなように三語ともほとんど人間である。動物が主体となる場合は、

(39) 猿が 木に しがみついている。

(40) ?猿が 木に すがりついている。

(41) 猿が 木に だきついている。

(42) インコが 背中に しがみついて 振っても 離れない。

(43) *インコが 背中に だきついて 振っても 離れない。

のように、「しがみつく」は手か足が、「だきつく」は手が自由に動かさせて対象に接することができるものに限られる。「すがりつく」は(40)のように使いにくい、しいて動物が頼ったり甘えたりしていると解釈すれば、

(44) チンパンジーの花子が 私に すがりついてきた。

と使える。

2. 2. 対象が存在しても接しない場合、または対象が存在しない場合

(45) 本に しがみつく。

(46) ?本に すがりつく。

(47) *本に だきつく。

(48) ??神に しがみつく。

(49) 神に すがりつく。

(50) *神に だきつく。

(51) 過去の栄光に いつまでも しがみついている。

(52) 過去の栄光に いつまでも すがりついている。

(53) *過去の栄光に いつまでも だきついている。

以上から、まず「だきつく」は(47)(50)(53)のように対象に直に接しなければ使用できないことがわかる。次に、「しがみつくと「すがりつく」を比較すると、「しがみつくと」は興味があったり、自分にプラスとなる対象に執着して離れないようにすることであり、神・仏等の神聖視するものには一般に使われない。「すがりつく」は、援助、同情、慈愛等を求めて対象を頼りとするものであり、対象が存在すると実際に接する意味が強いため抽象的には使いにくい。よって、(45)の本に執着して離れない意味を(46)は持っていない。同様に、

(54) 社長の椅子に しがみつくと。

(55) ?社長の椅子に すがりつくと。

では、(54)は社長の地位に執着し、辞職しようとしないう意味で、(55)は社長の肩書を利用して頼みとする意味にも、実際に椅子に接着する意味にもとれる。

(56) 彼の判断に しがみつくと。

(57) 彼の判断に すがりつくと。

上の二文では、(56)は自分のプラスにするため彼の判断に執着しているが、(57)は彼の判断を頼りとしている姿勢がある。

主体はやはり両語とも人間が多いが、

(58) 砂漠の生物は わずかな水に すがりついて
生きていると。

のように、具体物より抽象的なものの方が人間以外の時に使いやすい。

3. まとめ

2. の内容を要約すると次のようになる。

しがみつくと

1. 実際に接着する場合

接着可能な大きさか握りしめる部分がある対象に前面を向けてしっかりと接し離れまいとすること。

2. 実際に接着しない場合

自分にプラスとなる対象に執着して離れまいとすること。

すがりつく

1. 実際に接着する場合

頼みとするまたは自分を支える対象に前面か側面を向けて接し、対象に反抗する態度は示さない。

2. 実際に接着しない場合

援助・同情・慈愛等を求めて対象を頼りにすること。

だきつく

1. 実際に接着する場合

十分に大きな対象に前面を向けて腕をまわしてかかえ込むように接すること。

以上から各語の焦点となるものを抜き出し比べると、

しがみつくと 対象に執着して離れまいとする態度

すがりつく と 対象を頼りとする心情

だきつく と 対象に接する動作

のようになる。

補足

(59) 字引に しがみついで 勉強している。

(60) 字引に かじりついで 勉強している。

上文は執着して離れまいとする意味で同じように使われている。ここで、少し「しがみつくと」「かじりつく」の差を、〈執着して離れない〉という意味に限定して出して見たい。

(61) *石に しがみついても 仕事をする。

(62) 石に かじりついても 仕事をする。

「石にかじりついても」は慣用的に〈どんなに苦しいことがあっても耐えて〉の意味に使われる。

(63) ?ストーブにばかり しがみついでないで 外に行け。

(64) ストーブにばかり かじりついでないで 外に行け。

(65) 机に しがみついでばかりいて 手伝いをしない。

(66) 机に かじりついでばかりいて 手伝いをしない。

これらの例から、この二語を比べると「かじりつく」の方がすわりがよく、接着が強く感じられる。しかし、

(67) お金に しがみつくと。

(68) ?お金に かじりつくと。

(69) コトエのことばにしがみつくとようにしてゆっくりと言った。(壺井栄『二十四の瞳』 比喩表現辞典)

(70) コトエのことばに かじりついた。

(71) ??仏に しがみつくと。

(72) *仏に かじりつくと。

(73) 義理と人情に しがみつくと。

(74) *義理と人情に かじりつくと。

のように対象がより抽象的になるとかじりつくは使用範囲が狭くなる。(69)(70)を比べると、(69)はコトエのことばにすがの意味を含めているが、(70)は反対に反駁する意味をもつ。

以上のように、「しがみつくと」「かじりつく」に